

# 新評論

2015  
5・6  
No.257

発行所 © 新評論 2015年  
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28  
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832  
http://www.shinhyoron.co.jp  
e-mail : shrn@shinhyoron.co.jp  
振替 00160-1-113487 価格税抜



会見に臨む日本社会党委員長・土井たか子氏。1990年前後、山を動かした「おたかさんブーム」の頃。

半世紀にわたり日本の政局を見つめ続けてきた超ベテラン記者が「言葉」を軸に戦後政治経済の変遷を解説。臨場感溢れる戦後史!

まつりこと

## 政の言葉から読み解く 戦後70年

歴史から日本の未来が見える

宇治敏彦

◆ジャンル：戦後政治史

今年には「戦後七〇年」ですが、ひと口に「戦後」と言っても、「戦後民主主義」という場合の「戦後」と、「経済白書」で流し語になった「もはや戦後ではない」の「戦後」ではまったく意味が異なります。前者が戦争放棄や基本的人権に代表される日本国憲法下の「民主主義」体制を意味しているのに対して、後者は「敗戦直後の闇市経済からの脱却」を意味して使われた言葉です。

また「吉田ワシントン」という愛称は、戦後日本の復興に貢献した吉田茂首相を指していますが、「ワシントン」という言葉の由来は何でしょうか。大磯に住んでいた吉田首相が、通勤の妨げとなる踏切渋滞を迂回するバイパスを建設させ、これが「ワシントン道路」と呼ばれるようになったのに因むというのが定説となつていますが、「ワシントンバス」から名付けたという説もあります。このように、政の世界で流行語になった言葉を年次別に紹介しつつ、その背後にあった政治状況を検証し、「戦後日本」を分析したのが本書です。

敗戦直後の東久邇宮首相から現在の安倍首相まで、戦後「日本丸」の舵取りをした内閣総理大臣は三三人。「一内閣一仕事」という言葉があるように、吉田茂は「戦後復興」、鳩山一郎は「日ソ復交」、岸信介は「安保改定」、池田勇人は「所得倍增」、佐藤栄作は「沖繩返還」、田中角栄は「日中正常化」、中曽根康弘は「国鉄民営化」などで実績を上げました。その半面、自民・社会の二大政党による「一九五五年体制」の長期化で、政官財の癒着が進み、汚職事件が多発したこともご存じのとおりです。

いま日本は、人口減少、少子高齢化、非正規社員の急増、地方都市の消滅といった下り坂の局面にあります。安倍政権は「集団的自衛権」「憲法改正」へと走り出しており、戦後の「平和主義」も大きな屈折点となっています。本書では「五つの提言」を掲げ、なぜ「戦後」という言葉を残すべきかを訴えています。

(CJ・つひひ)

ISBN978-4-7948-1010-6 9月末刊

四六並製 予四〇〇頁 予二八〇〇円

著者 1937年大阪府生まれ。東京新聞、中日新聞の政治部次長、経済部長、論説主幹を経て東京新聞代表。現在、相談役。「首相列伝」「実写1955年体制」「論説委員の日本分析」など著書多数。版画製作が趣味で『木版画 萬葉秀歌』の著書もある。



のちに中国国歌となる「義勇軍進行曲」を作曲、23歳の若さで客死した聶耳(1912-35)

のちに中国国歌となる名曲をはじめ、数々の歌曲で民衆を鼓舞した天才作曲家。豊富な資料からその短い生涯と謎の死の真相に迫る。

# 歌で革命に挑んだ男

中国国歌作曲者・聶耳と日本(仮題)

【没後80年記念出版】

岡崎雄児

◆ジャンル：ノンフィクション／中国の音楽家／日中間関係史

近年、国際競技の場などで中国の国歌を耳にする機会が増えてきた。「起来！不願做奴隸的人們！(起て！奴隸たることを望まぬ人々よ！)」で始まるこの歌はもともと、のちに日中戦争へと収斂する帝国主義日本との戦いに立ち上がる青年たちを描いた映画の主題歌だった。

映画の題名は「風雲児女(嵐の中の若者たち)」。いまからちょうど八〇年前の一九三五年五月、上海で初上映された。その主題歌「義勇軍進行曲」は、日中戦争が始まるとその勇壮な旋律、力強い歌詞によって戦場に赴く兵士を励まし、抗日歌曲を代表するものとなった。そして四九年の中華人民共和国成立にあたり、国民的な支持を背景に暫定国歌に選定されることになる(その後正式に国歌と認定)。だがこれを作曲した聶耳(ニエアル)は、映画公開から間もない一九三五年七月、故郷雲南省を遠く離れた神奈川県藤沢市の鵠沼海岸で溺死した。

私はあるとき、この天折した隣国の作曲家の死が、事故死ではなく謀殺だったという噂を耳にした。日中の相互理解と

友好のためにも、真相を明らかにする必要があるのではないか——これをきっかけに、その後十数年にわたって資料を蒐集し、現地へ取材にも赴いた。それらの調査をもとに、彼の短い生涯と死の真相に迫ろうと試みたのが本書である。

聶耳は長い間、「革命音楽家」として聖人視されてきた。だが近年の研究によって、「聖人」の呪縛から解放された真の聶耳像が明らかとなりつつある。小著では、そうした最新の研究成果なども踏まえ、虚飾も誇張もない聶耳の実像を描くことをめざした。

私にとって、聶耳の生涯を知ること、日本の近現代史を捉え直すことでもあった。そのような歴史の再検討の中にこそ、近隣諸国との関わり方を考える上での原点があると考えている。そのささやかな試みである本書が、日中関係のみならず日本—アジア諸国関係の改善に少しでも寄与するところがあればと願う。

(おかさぎ・ゆうじ)

ISBN978-4-7948-1009-0 6月下旬刊

四六並製 予二五六頁 予二八〇〇円

著者 1944年生まれ、神奈川県出身。早稲田大学第一商学部卒業。日本国際貿易促進協会、中京学院大学経営学部教授などを経て、現在東北公益文科大学非常勤講師。単著「神奈川の中の中国」(東方書店)、「最新中国を知るキーワード99」(同友社)、共著「日中交流の四半世紀」(東洋経済新報社)など。



1962年、アンダルシアの小さな居間で取材に応じるオコナー。「アトランタ・コンステイテーション」誌 ジョー・マクタイヤ撮影

深い霊性と激しい想像力によって「20世紀最大の短編小説家」と呼ばれたオコナー。その故郷への旅を通して創作の原点に迫る。

# フラナリー・オコナーの ジョージア

20世紀最大の短編小説家  
を育んだ恵みの地

サラ・ゴードン 著  
田中浩司 訳

◆ジャンル:アメリカ文学

「フラナリー・オコナーとの和やかな日々」に続いて、オコナー関連の翻訳をお届けする。原著の裏表紙に書かれたキヤッチフレーズの通り、「深い霊性と激しい想像力をもつ作家を取り巻く物質界」にアメリカ合衆国ジョージア州への文学的ガイドブックである。

ジョージアはオコナーの故郷であり、発病後の「幽閉の地」でもあった。オコナーはニューヨークで作家として活躍し始めたばかりの二五歳で、父の命を奪ったのと同じ全身性エリテマトーデスという難病にかかった。そしてその後の人生を故郷ジョージアで過ごすことを余儀なくされたのである。

都会での活躍の機会を失い、肉体的・地理的・社会的制約を受けながら田舎に引きこもることになり、作家としての夢は一度は断たれたかに見えた。しかし、オコナーは自らに課せられた幾多の制約を厭うことなく、むしろ神から与えられた「最高の恵み」と考え、その後の創作の原点・機動力としていった。

またオコナーは、かつて奴隷制度を有し、南北戦争に負けたアメリカ南部が、「墮ちるといふ経験に加えて、それを解釈する手段も持っていたから、二重に恵まれた」といふべきである（上杉明訳「秘義

と習俗」春秋社、五八頁）ことに気付く。

幼少期のオコナーを温かく育んだ故郷ジョージア、都会から帰還し死に至るまでの彼女が作家として過ごしたジョージア、歴史に深い傷跡をもち、彼女にたくさんのイマジネーションを与えたジョージアを、作品鑑賞を絡めながら紹介するものである。

本書によって、フラナリー・オコナーという一人の女性作家がジョージアのような歴史と環境のなかに生まれ育ち、「20世紀最大の短編小説家の一人」と呼ばれるまでに成長したのかを知り、作家が大切にしていた「場所の感覚」を感じ取るための一助となることを願う。懇切な注を付すことで、「オコナーの故郷ジョージア」を旅する際のガイドブックとしての用途にも配慮した。（たなかこうじ）

ISBN:978-4-7948-1011-3 5月下旬刊

四六並製 予二三四頁 予二二〇〇円

●フラナリー・オコナー（一九二五～六四）

アメリカの作家。プロテストан্ট主流のジョージア州で終生カトリックとして生き、創作と人生の両面において神の真理を追求し続けた。O・ヘンリー賞（三回）、全米図書賞（没後）を受賞。三二の短編小説、二つの長編小説などがある。

フラナリー・オコナーとの和やかな日々

好評刊「オールド・ヒストリー」

B・セントリー・C・アマゾン 編

三〇〇〇円

著者 Sarah GORDON フラナリー・オコナー・アンダルシア財団理事、ジョージア・カレッジ州立大学名誉教授（英語英文学）。長年にわたり、世界的に名高い「フラナリー・オコナー・シンポジウム」の座長を務め、研究紀要「フラナリー・オコナー・ブレティン」などの編集に携わる。オコナー研究の第一人者の一人。

世界遺産マスターが語る **高野山**

尾上恵治

〔自分の中の仏に出逢う山〕 開創一二〇〇年記念出版。金剛峯寺前管長・松長有慶氏のインタビュー掲載。四六並製 三五六頁 二二〇〇円

**大雪山** カムイミンツクラ 神々の遊ぶ庭を読む

清水敏一・西原義弘

北海道最高峰には知られざる幾多のドラマがあった! 「写真の町」東川町が全国に向けて発信。

四六上製 三六〇頁 二七〇〇円

**ロマン主義文学と絵画**

村田京子

〔19世紀フランス「文学的画家」たちの挑戦〕 「絵画の比喩」をジェンダーの視点で分析する意欲作。A5並製 一二四頁 二八〇〇円

**戦争を指導した七人の男たち**

マルク・フェローノ／小野 潮訳

〔並行する歴史〕 「われわれの時代の問題によりよく対処するため」に。アナル学派の重鎮が日常史研究の経験を生かして従来の分析を一新、新たな大戦像を提示。

ISBN978-4-7948-0971-1 近刊

四六上製 予五二〇頁 予五〇〇〇円

著者 Marc Ferro 一九二四年生まれ。ロシア史、映画史を中心とし、広い題材を扱う著述を多くあつた。雑誌「アナル」の共同主宰者、社会科学高等研究院の研究指導者。

フィンランド人が語る **リアルライフ**

ツルネン・マルティ

〔光もあれば影もある〕 前参議院議員が母国の友人たちに取材。日本人への豊かなメッセージ。四六並製 三三八頁 二八〇〇円

**棄国ノススメ**

増田幸弘

家族とともに「棄民生活」10年。新たな移民の時代を予感させる、ユニークな「日本脱出記」。

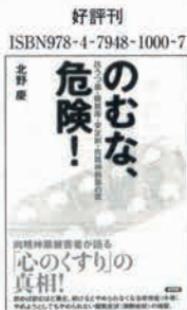
四六並製 二四八頁 二二〇〇円



## のむな、危険!

北野 慶

〔抗うつ薬・睡眠薬・安定剤・抗精神病薬の罠〕 向精神薬被害者が語る「心のくすり」の真相! 四六並製 二四〇頁 一八〇〇円

**孤独死の看取り**

ドクターファンタスティック★嶋守さやか

山谷、釜ヶ崎:そこら浮かび上がる支援者達のありのままの姿と現状。脱力★ファンタスティック系 社会学シリーズ②

四六並製 二五六頁 二〇〇〇円



## 「健康」語りと日本社会

高尾将幸

「リスクと責任のポリテイクス」  
「健康」の政策化が私たちの暮らしと制度に及ぼす影響。

四六並製 三三〇頁 三二〇〇円



## アトム通貨で描く「コミュニティ・デザイン」

アトム通貨実行委員会編

「人とまちが紡ぐ未来」 手塚治虫の願いを理念にした「アトム通貨」。その成功のカギと魅力の全てを紹介。四六並製 二五六頁 一八〇〇円



## 積極財政宣言

島倉原

「なぜ、アベノミクスでは豊かになれないのか」 気鋭のエコノミストによる日本経済復活への処方箋！

四六並製 二八〇頁 二五〇〇円



## 経済人間

クリスチャン・ラヴァル／菊地昌実訳

「ネオリベラリズムの根底」 経済に取り囲まれた社会・文化・政治・教育観はいかにして生成されてきたのか。その歴史の変遷を丹念に辿り、現代の病の核心に迫る。

ISBN978-4-7948-1007-6 近刊

四六並製 四三六頁 予三八〇〇円



## 仙台榎町瓦 減災の処方箋

菅原康雄・三好亜矢子

「1人の犠牲者も出さないために」  
ごく普通の町内会が取り組む「人命第一」の軽やかな実践。

四六並製 二二六頁 一八〇〇円



## 震災復興と地域産業 6

関 満博編

「復興を支えるNPO、社会企業家」 「社会」を意識した復興への取り組みの意義を抽出。

四六並製 二六四頁 二五〇〇円



## 日本企業のアジア・パリュチェーン戦略

鈴木洋太郎編

成長を続けるアジア市場への進出戦略を分析し、日本企業立地先としての魅力とリスクを解明。

A5上製 一八四頁 二三〇〇円

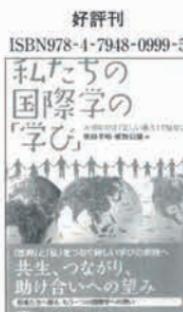


## 私たちの国際学の「学び」

奥田孝晴・椎野信雄編

「大切なのは「正しい答え」ではない」「世界」と「私」と「私たち」をつなぎ直すもう一つの学びの実践へ。

四六並製 二六四頁 一八〇〇円



## 栗原康「学生に賃金を」

# 日本の大学は授業料が高いもの いまこそ、その通念を打ち破れ

■評者 竹田 学(東京堂神田神保町店、副店長)

「AERA」(2015年4月20日号)

ごく当たり前とされている通念がある。お金を払って勉強するのが大学生、働いてお



竹田さんが副店長を務める東京堂神田神保町店2F売場の棚に、栗原康氏の最新刊2点が面陳されています！(右端も小社刊・増田幸弘氏「薬国ノススメ」)

金をもらうのが社会人。日本は教育水準が高く、教育制度も並以上。だが、これは間違いない。日本は高等教育に対する公的支出が世界的にも少なく、授業料は国公立でもかなり高い。低所得者向けの奨学金も、実態は多くが利子付き貸与の学生ローンで、借金まみれの学生を大量に生み出している。大学の授業料値上げ・奨学金の貸金業化は、政界・経済界の要請で推し進められてきた。根底には、教育

に学費の自己負担は当然という観念がある。これに対して著者は主張する。学生に賃金を、つまり大学無償化である。学問・教育は商品ではなく共同財であり、大学は自由に考え表現する場所であるべきで、お金に縛られてはならないからだ。本書は大学無償化の声が燎原の火の如く広がることを夢見て上げられた狼煙である。アナキーでグループビーな文体にアジテートされ、シャウトしてしまう。「学生に賃金を！」

「他店でもおまかせ」  
紀伊國屋書店新宿本店・伊藤さん(P7巻)  
照) 考案の特製POP!

しごく真つ当な主張を銜いのない  
ユーモアで語りぬく、個人でありながら  
まったく政治である奇跡の評論集!

常軌を逸した高学質、  
奨学金という名の借金、  
バイトと就活漬けの日々、  
学生生活を破壊した「生業防士」を  
マツケル思想の武器。

PAY FOR STUDENTS

学生に賃金を  
栗原 康 著

「福島民報」他紹介  
ISBN978-4-7948-0695-7

学生に賃金を  
栗原 康

PAY FOR STUDENTS

常軌を逸した高学質、  
奨学金という名の借金、  
バイトと就活漬けの日々、  
学生生活を破壊した「生業防士」を  
マツケル思想の武器。

PAY FOR STUDENTS

学生に賃金を  
栗原 康 著

想像してみよう、無限の大学を  
万人の自由な生が花開く時を

大学生生活を破壊する根本要因を  
取り除け! 生と知の奪還に向けた  
「万人のための自由で無償の大学」像  
四六上製 二四八頁 二〇〇〇円

## 本を売る

## 読書について

名前のあることに違和感を覚える。「伊藤くん」と呼ばれるより「おい、そこのお前」と呼ばれた方がしっくりする気がする。もちろん、腹は立つけれど、名指されることへの違和感の方が上回る。無名性への憧れ。もちろん、これはとてもズルいことである。無責任と言われても仕方がない。

ところで、周りを見渡すと、みな何者かである。名前は当然として、みな社会的な何者かである。つまり「のーさん」というワケである、みな。何者でもないたくない者にとつて、この社会は息苦しい。つねに何者かであることが要請され、何者かになるために自分を高めることが評価され、その努力を怠ったり、拒否すると未熟者、馬鹿者とみなされる。だが、もうわたしはわたしでいたくない。「わたし」でいるために過去の「わたし」との整合性や他者の目に矛盾のない「わたし」を表現することは窮屈なのだ。わたしやあなた

が何者だろうとどうでもいい。何者かであることに規定された関係性など放り捨ててしまおう。

そして、名前を失効する読書が必要だ、と突然わたしは思う。今まで、経験し学んだ末に形成された「わたし」が解きほぐされ、新しい「わたし」が生まれるような体験。そこでは、知識が問われることはなく、つねにゼロ地点で、次に起こることは全くわからないが、可能性は無限だ。端から見れば愚行に違いない。だって、読書をすることでわからなくなるのだから。だが、そのわからなさが気持ちよい。「わたし」がリセットされるから。生きづらいな、と思ったら文字の洪水に飛び込み「わたし」を洗い流そう。すると、身軽になってさわかだ。

と、こんなことを考えるのは明らかにゴンブローヴィッチ「フェルディナンド」(平凡社ライブラリー)の影響だ。永遠に未熟者であることの覚悟。周りから押しつけられる、何者かであることへの徹底した反抗。お時間があるならぜひとも!!

紀伊國屋書店新宿本店 伊藤隆弘

本誌表示価格はすべて税抜です。

## 書評日誌(2・12~3・30)

## ●書評 ●紹介 ●関連記事

- 2・12 ①今、この本を子どもの手に  
(東京子ども図書館)『キヴァー 記憶を注ぐ者』
- 2月号 ①月刊クーヨン『ふってもはれても』
- 2/中 ①出版ニュース『アドラシオン』
- 2/下 ①出版ニュース『フラナリー・オコナーとの和やかな日々』
- 3・5 ①ふえみん『南国港町おばちゃん信金』
- 3・7 ①読売新聞『東日本大震災と地域産業復興(I-IV)』著者談
- 3・10 ①本と雑誌のニュースサイト「リテラ」『食べる? 食品セシウム測定データ745』(久里陽子)

- 3・19 ①十勝毎日新聞『大雪山 神々の遊ぶ庭を読む』(編者・西原義弘氏談)
- 3・20 ①毎日新聞(北海道版)『大雪山 神々の遊ぶ庭を読む』
- 3・25 ①IWJブックレビュー『学生に賃金を』
- 3・30 ①秋田さきがけ『学生に賃金を』(著者談)

## 3月-4月の増刷

揺れるスウェーデン 高齢者ケア:発展と停滞の交錯  
西下彰俊 2刷 2500円

日本企業の国際フランチャイジング  
[新興市場戦略としての可能性と課題]  
川端基夫 3刷 2500円

開発と教育 国際協力と子どもたちの未来  
江原裕美 編 6刷 3500円

## 本を読む

## 大雪山 神々の遊ぶ庭を読む

学生時代の登山で、白雲岳から見た高根ヶ原トムラウシの風景に圧倒され、北海道を就職の地に選びましたが、大雪山にはずいぶん通いましたが、15年前に転勤となり、現在は東京で仕事をしています。ひさしぶりに懐かしい地名を見、また大雪山の歴史を勉強させてもらいました。読んでいる間、有意義な山に登っているように感じました。「あとがき」にある「書けなかったこと①②⑤」を統編として期待しています。(市川市会社員 安部信正 54歳)

## ふつてもはれても

本当に素晴らしい本でした。川和保育園は、僕が実習でお世話になった、今も理想とする園です。園庭については知ってはいたのですが、実習時に子どもたちのつぶやきまでは知ることができなかったです。本書を読めて本当に良かったです。写真が多めでことと、本文が「設備の説明」「子どもたちのつぶやき」「寺田園長の想い」の三部構成になっていたのがとても良かったです。(横浜市 保育士)

## 清水社(一)

## のむな、危険!

私も向精神薬の薬害被害者です。約10年間、大変な目にありました。とりあえず断薬には成功しました。損した10年を取り返すつもりで、これからは前向きに生きていきたいと思っています。この本を多くの方に読んでいただき、日本の精神科医療の真実を知ってもらいたいと思いました。(町田市 師 信司 45歳)

## 好評刊

フォトジャーナリストが見た世界  
川地遼(著) 1300円

## ふつてもはれても

川和保育園の日々と13の「つぶやき」  
川地遼(著) 1300円  
宮原洋一(監修) 栗原康(監修)

## 哲学者 内山節の世界

「昔はよかった」と言うけれど  
大庭秀幸(著) 2000円  
「戦前のマナー・モラルから考える」

ダンズシューズで雪のシベリアへ  
S. カル(著) 栗原康(監修) 3300円  
食へる? 食品セシウム測定データ745  
1300円

## 編集部から

震災一か月後、スロヴァキア在住のフリー記者増田幸弘さんとのやりとりが始まりました。それから四年間、「日本人」という肩書きの意味をめぐって話しあい、増田さんは何度も何度も原稿を書き直し、ようやく「棄国ノススメ」が出来上がった。「同年代としてすぐく身につまされた」「海外生活の良い面だけでなく辛さも表現されていて、リアリティがある」など、書店員響をいただいたお礼です。書店員さんが全力応援して下さいませ!(P6参照)「学生に貸金を」、絶好調です!最新評論集「はたらかないで、たらふく食べたい」(タバブックス)にも、本書と同じ「自由と無償」の思想が貫かれています。気鋭の政治学者・栗原康さんから目が離せません!

## 営業部から

▼「大雪山 神々が遊ぶ庭を読む」刊行記念・写真家 大塚友記恵氏写真展開催!(@ジュエルク堂書店 池袋本店7階理工書壁面ギャラリー)/会期5月1日~31日/会場では関連ブックフェアも同時開催(5月11日・6月10日)! 普段は北海道でしか入手できないポストカード、登山地図、ガイドブックなども限定販売いたします!  
▼開創120周年記念出版「世界遺産マスターが語る 高野山」著者 尾上恵治さんトークイベント開催!5月17日(日)14時より、大垣書店イオンモールKYOTO店イベントスペースにて。堂宮大工であり金剛峯寺案内人でもある尾上さんに、聖地高野山の魅力をあますところなく語っていただきます。【特典】ご来場者全員に、貴重な高野靈木を使用した焼印入り木札を贈呈!

## SMCC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料!各種特典あり!お申し込みを!

当クラブ(九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。  
入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくこと、全商品の中からご希望の本を1冊無料送呈する特典もございます。  
ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはお電話にて、お名前・郵便番号・ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。